

『自然に親しむ運動』

7月21日～8月20日

特集 自然からの手紙



皮をはがれ嘆きの白樺

動植物を大切に

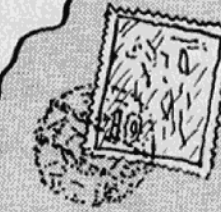
白樺からの手紙

私は白樺です。でも、私の腰から下の幹は黒い肌です。三年前の夏、一人のハイカーが私の白い皮をはいでしまったのです。私たちの皮は、一度はがされると、もう生涯、その白さを取

り戻すことはできません。私の仲間の多くが、こんな姿のままそれでもだまって悲しい運命を耐えています。人間の皆様、どうかもうこれ以上、私のような悲しい姿の仲間をふやさないでください。しかし、私などはまだ良い方なのかもしれません。お隣の草原に住むツツジさ

あの時のコマドリさんの嘆きようは、私も思わずもらい泣きしたくらいです。小鳥さんたちは、私たちのからだに巣喰う、悪い虫たちを退治してくれる、たいせつな友だちなのです。私自身の悲しみでもあったわけです。もともと私は、いえ、この山のすべての動物や植物たちは、

決して人間嫌いなのではないのです。むしろ、一人でも多くの人たちに、私たちの美しい姿を見せたいとさえ思っているのです。山の動植物を代表して、人間の皆様に訴えます。山に入っても、私たちがききつけたり、連れ去ったりすることだけは、どうぞおやめください。お願いします。



七月二十一日から八月二十日までの一か月間は、環境庁が主催する「自然に親しむ運動」月間です。七月から八月にかけては、キャンプのシーズンでもあり、市営阿世湯キャンプ場をはじめ、市内十三のキャンプ場に、昨年の夏訪れたキャンパーは約六万人、この夏もまたたくさんの人たちが、美しい日光の自然を求めて訪れることでしょう。市民の皆さんの中にも、キャンプやハイキングのプランをお持ちのかたも多いことでしょう。しかし、自然を求め、自然に親しむ人の数が増えるにつれ、心ない人たちの行為で、自然がむしばまれていくことは、悲しい事実でもあります。今月の広報紙は、人間たちの無分別な行為に対する、自然からの訴えの手紙？を集めました。

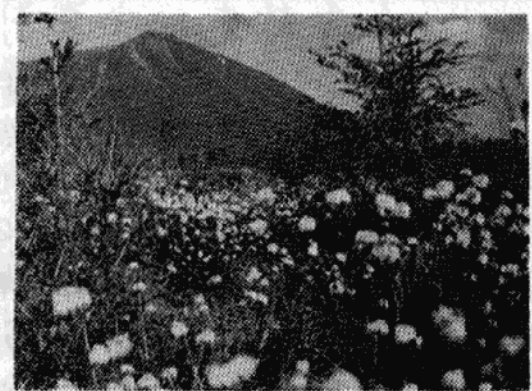
山火事は恐い

ワタスゲの手紙

六月下旬から七月にかけて、戦場が原の私たちの仲間は、一面に白いじゅうたんを敷いたように咲き競います。戦場が原は、私たちのほかヤマツツジやノアザミなど、たくさん高山植物の住む、日本でも数少ない高山植物の宝庫です。私たちの仲間が荒されるのを防ぐために、この原に一般の人たちが入ることは禁じられていますが、それでもときどき、心ないハイカーが入ってくる場合があります。

私たちが何より恐ろしいのは人間の扱いです。ついこの間も、近くで山火事がありました。幸い少ない面積で消し止められました。小田代が原で起きた山火事は、今思い出してもぞっとします。

忘れもしません、それは五月三日の午後一時、ハイカーのたった一本のタバコの火から、三千二百六十四アールもの林野が二時間半も燃え続け、たくさん私たちの仲間が灰になったのです。ハイカーの皆さん、山を歩きながらタバコを吸うのはやめてください。いっぶくしたら、タバコの火が完全に消えたかどうか、よく確かめて捨ててください。紅色の花をつけたホザキシモツケさんが云いました「こんなに澄んだ空気の中で、どうして肺の中にニコチンを入れたがるのだらう」って。それは私にも不思議なのですが……。



戦場が原のワタスゲの群落

ゴミを散らさないで

熊笹からの手紙

おれは熊笹。おれたちの仲間、この山中にはえている。近ごろ、人間の世界は公害と